

平成30年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 花尾 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学, 理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問う。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

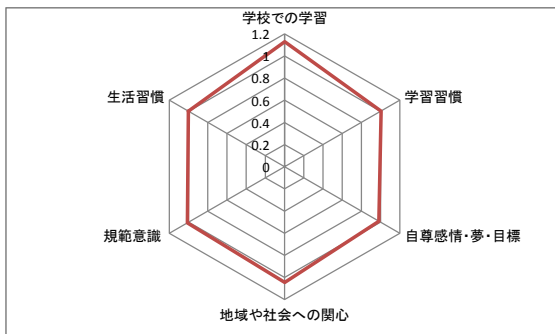
(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B, 理科)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.0	75	5.4	60	22.6	63	6.1	44	17.3	64
全国	24.3	76	5.5	61	23.8	66	6.6	47	17.9	66

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を上回っている。 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使えるようにしていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	話し合いの際のメモの取り方の説明として適切な物を選択する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	伝えたい事実や事柄が、相手に分かりやすく伝わるように書く問題についての正答率が低かった。	
国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率を大きく上回っている。 ねらいに応じて書く力が身についている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	相手の的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く力を高める必要がある。	
数学A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を上回っている。 数学的な技能が身についている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	図形の性質を理解し、関数の特徴を関連づけて理解している。	
	努力が必要な問題	新たな事象を発見していく過程で、文章の内容を正確に読む力を高める必要がある。	
数学B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を上回っている。 数学的な見方や考え方が身についている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができている。	
	努力が必要な問題	説明した事柄をもとに新たな性質を見出す問題に課題がある。	
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を上回っている。 実験の目的に応じた条件設定ができるようになっていく必要がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	光の反射の規則性に関する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	原子記号に関する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習習慣が定着している。卒業後の進路実現に向かって、計画的・系統的に学習に取り組めるように進路学習を進めていく。 ・自尊感情及び将来の夢や希望をもっている生徒は全国の割合より若干低い傾向にある。今後さらにキャリア教育、進路相談等を充実させ、将来の展望がもてるようにしていく。 ・地域や社会への関心が高く、地域の祭事や催物等に積極的に参加する生徒が多い。今後も引き続き、家庭・地域との連携を図り、地域行事等への積極的な参加を促していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・朝自習は5教科(国、数、社、理、英)で行っている。学力定着サポートシステム(市教委より配信)を状況に応じて実施し、基礎学力の定着を図っている。また、全学年でショートコメント(新聞のコラム記事や投稿等を読んで、自分の考えや感じたことを短い文章で表現する)の取組を実施することで、事象に対する自分の思いや考えを表現できる力の育成を図っていく。 ・希望生徒を対象として、「ひまわり学習塾」を週に2回実施し、基礎学力の定着を図っている。 ・学校図書館の整備、朝読書の推進、各教科による図書館の活用等を積極的に行い、読書活動を推進することで、言語感覚を豊かにするとともに、読みとる力・言葉の力を育てていく。 ・各教科において、発問の工夫や学習形態(ペア・グループ学習等)の工夫、ワークシートの活用、小テスト等を実施することで、授業の充実を図っていく。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、宿題や課題の提出を徹底するなど、教科担任と学級担任が連携し、基礎学力の向上と家庭学習の定着を図る。 ・調査前に家庭学習計画を作成し、毎日学級担任が確認・指導を行う。 ・学校便りや学校HPを通して、調査の結果・分析を伝えるとともに、懇談会等において現状や傾向を説明することで、家庭との協力体制を構築していく。 ・食や健康についての情報を保健通信や保護者懇談会を通じて行い、生徒の健康を促進していく。 ・携帯電話、スマートフォンについての約束事をつくり、「ノーゲーム・ノーテレビデー」を家庭にも促進していく。
